

# 多摩ニュータウン

〈南多摩〉 (全体)

多摩ニュータウンは、東京都多摩市・稲城市・八王子市・町田市にまたがる、南北約2～5km、東西約15km、面積2,853.4haの国内最大級のニュータウンです。

高度経済成長期の東京都市圏への人口・産業の一極集中による住宅難や郊外地域のスプロール化問題を解決するため、多摩丘陵に計画的に健全な住宅市街地を建設し、良質な住宅や宅地を大量に供給することを目的に、昭和41年に事業がスタートしました。

多摩ニュータウンでは、その時々ニーズを取り込みながら、計画を見直し、まちづくりの目的も大量の住宅供給に、就業の場の確保や賑わいの創出など、様々な都市機能を計画的に配置する多機能複合型のまちづくりが加わり、現在は人々が働き、学び、憩い、そして快適に住まう環境を備えた都市となっています。

## 地区概要

所在地	東京都多摩市、稲城市、八王子市、町田市
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央自動車道 国立府中ICより約6.1km、府中スマートICより約2.3km、稲城ICより約3.1km</li> <li>京王相模原線 稲城駅より約0.6km、若葉台駅、京王永山駅、京王多摩センター駅、京王堀之内駅</li> <li>小田急多摩線 小田急永山駅、小田急多摩センター駅、唐木田駅ほか</li> </ul>
地区面積	2,853.4ha (新住宅市街地開発事業区域 2,217.4ha)
計画人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>新住宅市街地開発事業 282,000人※1</li> <li>土地区画整理事業 60,200人※2</li> </ul>
事業手法	新住宅市街地開発事業 / 土地区画整理事業
施行期間	昭和41年度～平成17年度※3

※1 都市計画人口 ※2 居住計画人口 ※3 UR都市機構施行新住宅市街地開発事業

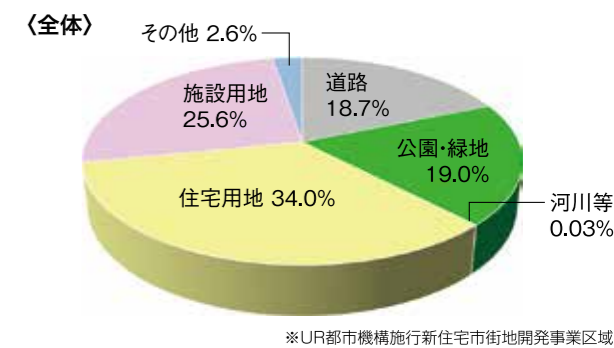
## 事業スケジュール【全体】

- 昭和38年7月 / 新住宅市街地開発法公布
- 昭和38年11月 / 都市計画区域指定(多摩・由木・稲城の3市町村)
- 昭和41年12月 / 新住宅市街地開発事業の事業承認
- 昭和45年3月 / 住宅建設着工
- 昭和46年3月 / 多摩市域諏訪・永山地区 入居開始
- 昭和49年10月 / 京王相模原線多摩センター駅まで延伸
- 昭和50年4月 / 小田急多摩線多摩センター駅まで延伸
- 昭和61年5月 / 新住宅市街地開発法の一部改正(特定業務施設用地の導入)
- 昭和63年3月 / 稲城市域向陽台地区 入居開始
- 平成2年3月 / 八王子市域堀之内・別所地区(ライブ長池地区) 入居開始
- 平成2年3月 / 京王相模原線 橋本駅まで全線開通、小田急多摩線 唐木田駅まで開通
- 平成12年1月 / 多摩モノレール 上北台～多摩センター間開通
- 平成18年3月 / UR都市機構施行新住宅市街地開発事業完了

## 地区位置図



## 土地利用の割合※



## 航空写真



平成29年撮影

出典: 国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)

## 地区全体図



# 多摩ニュータウン 多摩市域

多摩市域は面積1,240.7haで、多摩ニュータウン事業区域の約43%を占めています。多摩ニュータウンの開発は多摩市域からはじめられ、他市域に先行して整備が進められました。

昭和46年に諏訪・永山地区から入居が始まり、住宅供給では、様々なタイプの供給方法が積極的に導入され、宅地分譲、建物付宅地分譲、民間卸などが展開されました。また、国による多極分散型都市構造への転換を受け、単なるベッドタウン型の住宅団地から脱却し、施設用地を設け、多摩センター地区をはじめ、サービスインダストリー地区、唐木田地区などで、オフィス・業務施設の誘致が行われる等、多機能複合型のまちづくりが進められました。

## 市域概要

所在地	東京都多摩市
面積	1,240.7ha 新住宅市街地区域 989.2ha 土地区画整理事業区域 251.5ha
計画人口・戸数	84,300人・22,600戸
駅乗降客数*	日平均78,119人(平成30年度) 京王相模原線・小田急多摩線 永山駅
	日平均141,534人(平成30年度) 京王相模原線・小田急多摩線 多摩センター駅
	日平均17,554人(平成30年度) 小田急多摩線 唐木田駅

\* 国土数値情報[駅別乗降客数データ](国土交通省国土政策局)

入居開始	昭和46年3月	諏訪地区(5住区) 永山地区(6住区)
	昭和51年3月	貝取地区(7住区) 豊ヶ丘地区(8住区)
	昭和57年3月	落合地区(10住区) 鶴牧地区(11住区)
	昭和59年3月	豊ヶ丘地区(4住区)
	平成3年3月	唐木田地区(11・12住区の各一部)

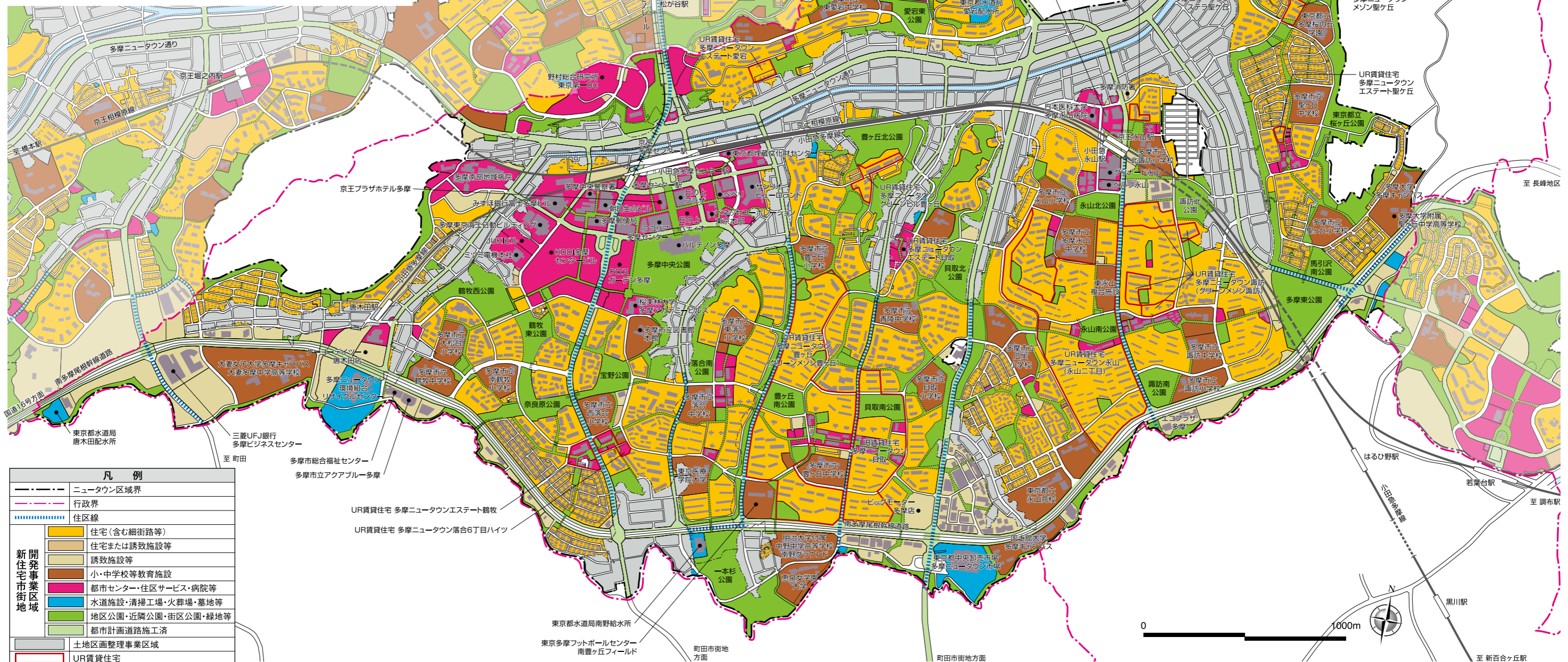
航空写真



出典: 国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)

## 土地利用計画図

※ 土地施設は、令和4年3月現在の情報に基づいています。



# 多摩ニュータウン 八王子市域

八王子市域は面積1,112.9haで、多摩ニュータウン事業区域の約39%を占めています。

八王子市域の12・13住区は、「ライブ長池地区」とネーミングされ、多機能複合都市として、高水準の住宅地整備、業務施設の導入が進められると同時に、歴史的、自然的資源を尊重した街づくりが進められました。

## 市域概要

所在地	東京都八王子市	
面積	1,112.9ha	新住宅市街地 910.9ha 土地区画整理事業区域 202.0ha
計画人口・戸数	30,100人・9,220戸	
入居開始	平成2年3月	堀之内・別所地区(ライブ長池地区)(12・13住区)
	平成11年9月	N-City地区(13住区の一部)

駅乗降客数\* 日平均32,879人(平成30年度) 京王相模原線 京王堀之内駅

\* 国土数値情報「駅別乗降客数データ」(国土交通省国土政策局)

## 土地利用計画図

※土地利用計画は、令和4年3月現在の情報に基づいています。



## 航空写真



# 多摩ニュータウン 稲城市域

多摩ニュータウンの中で最も都心寄りに位置する稲城市域は、面積300.6ha、多摩ニュータウン事業区域の約11%を占め、向陽台、長峰、若葉台の3住区からなり、昭和63年3月に向陽台地区で入居が開始されました。

多摩ニュータウンの玄関口でもある稲城市域は、多摩丘陵の南斜面で果樹園や農地が残るエリアでしたが、恵まれた自然環境を活かしながら、「緑の環」構想のもと、良好な住環境形成に向けてまちづくりが進められました。

## 市域概要

所在地	東京都稲城市
面積	300.6ha 新住宅市街地区域 292.3ha 土地区画整理事業区域 8.3ha
計画人口・戸数	29,000人・8,600戸
入居開始	昭和63年3月 向陽台地区(1住区) 平成7年3月 長峰地区(2住区) 平成11年3月 若葉台地区(3住区)
駅乗降客数*	日平均27,278人(平成30年度) 京王相模原線 若葉台駅  日平均21,596人(平成30年度) 京王相模原線 稲城駅

\* 国土数値情報[駅別乗降客数データ] (国土交通省国土政策局)

## 航空写真

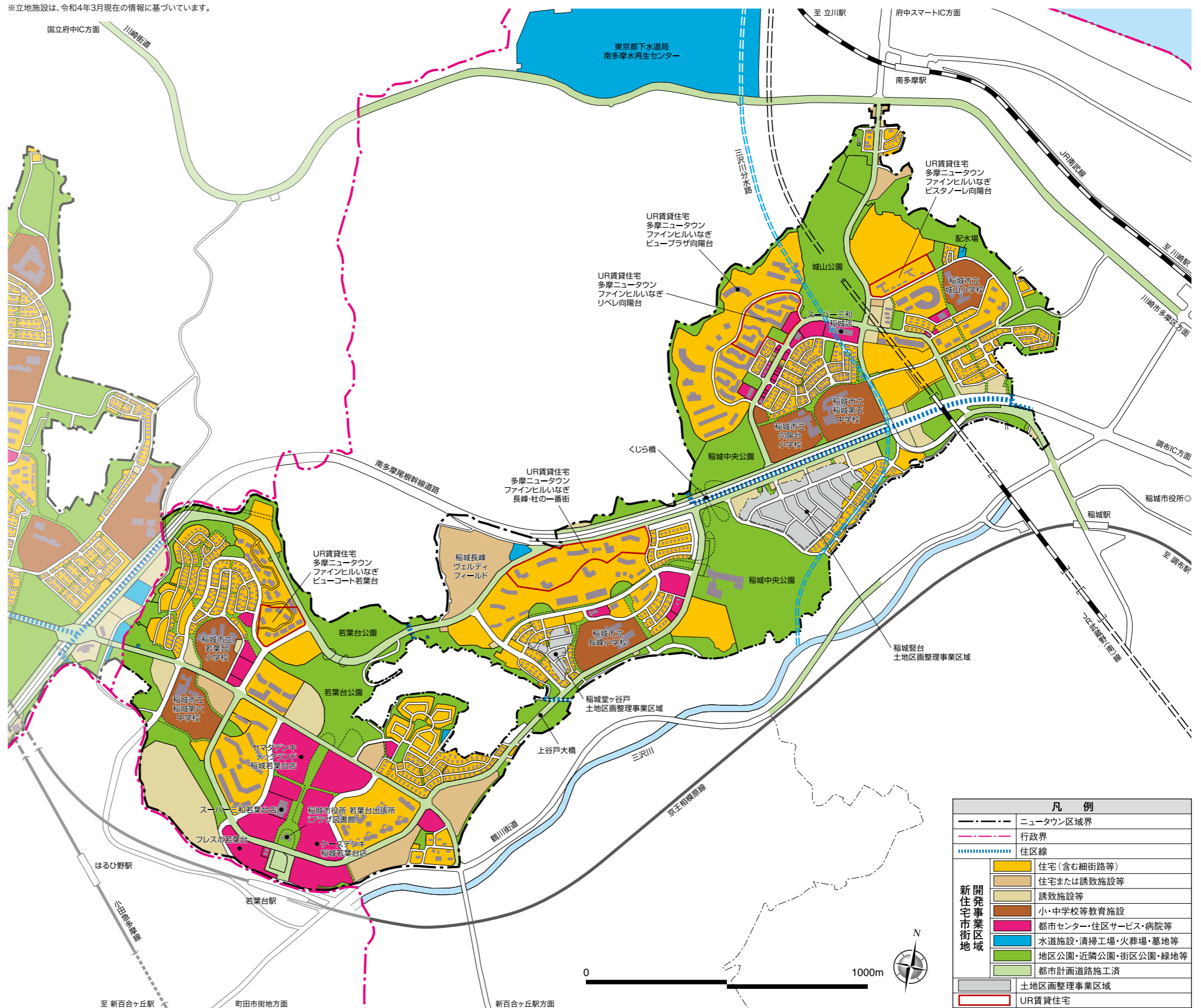


平成29年撮影

出典: 国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)

## 土地利用計画図

※立地施設は、令和4年3月現在の情報に基づいています。



凡例	
---	ニュータウン区域界
---	行政区界
---	住区線
■	住宅(含む細街路等)
■	住宅または誘致施設等
■	誘致施設等
■	小・中学校等教育施設
■	都市センター・住区サービス・病院等
■	水道施設・清掃工場・火葬場・墓地等
■	地区公園・近隣公園・街区公園・緑地等
■	都市計画道路施工済
■	土地区画整理事業区域
■	UR賃貸住宅